



プレス発表資料

平成29年7月21日
琉球大学
久米島町
公立久米島病院

久米島デジタルヘルスプロジェクトについて

このたび、久米島町において、糖尿病や肥満症など深刻な生活習慣病に関する社会実証試験が行われることとなりました。

つきましては、下記のとおりプレス発表を行いますので、御多忙の折恐縮ですが、取材くださいますようお願い申し上げます。

日時：平成29年7月31日（月） 12:00～13:00

場所：琉球大学医学部管理棟3階大会議室
アクセスについては以下をご覧ください。

http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ_info/general/access/index.html

参加者：琉球大学大学院医学研究科 益崎裕章教授、宮里実准教授、
松下正之教授

琉球大学医学部先端医学研究センター 米本孝二特命教授
久米島町 大田治雄町長、平田淳子福祉課保健師
公立久米島病院 深谷幸雄院長、山城清人医師

ファイザー社
バイエル薬品株式会社
株式会社ブルーブックス
株式会社エムティーアイ
沖縄セルラー電話株式会社

陪席者：琉球大学 須加原一博理事
琉球大学医学部 石田肇医学部長
琉球大学医学部 藤田次郎医学部附属病院長

■本事業の背景

沖縄本島の西に位置する離島、久米島では糖尿病や肥満症が深刻な健康課題になっている。一般に、糖尿病は発病に先立つ10～15年前から血糖変動の異常や膵臓の機能低下が徐々に進行し、中高年世代に多く見られる疾患であるが、久米島町では若年層で発症する患者もあり、早世による人口減少の一因にもなっている。この理由として、久米島町民は血糖値を下げる物質であるインスリンの分泌量が本土の住民に比べて過剰であり、体質や生活習慣によってインスリンが体の中で効きにくくなっている可能性が注目される。

このような背景を踏まえ、最新の医学解析技術によって糖尿病などの生活習慣病を予防する有効な対策を導き出し、デジタルヘルスデバイスやビッグデータの活用によって久米島に新たな健康ブランドを樹立し、人口の維持増進や経済振興に結び付ける。

本事業には琉球大学医学部、久米島町、公立久米島病院、国内外の製薬企業群（ファイザー社、バイエル薬品株式会社など）、情報・通信・医療機器関連の企業群（株式会社ブルーブックス、株式会社エムティーアイ、サイマックス株式会社、沖縄セルラー電話株式会社など）が有機的連合体を形成して参画し、かつてない規模感とスピード感のもとに科学技術の連携とエビデンスの構築を推進していく。

■離島活性化の実現に向けて立ちはだかる構造的課題

久米島町では糖尿病・肥満症などの生活習慣病が深刻化している。その理由として、身体活動量の不足、動物性脂肪や炭水化物の過剰摂取、などの要因が考えられるが、特有の遺伝的背景の有無を含めた全町的な調査・研究は未だ行われていない。高校を卒業すると進学あるいは就職で島を離れるケースが多く慢性的な人材難に陥っている。特に保健・医療の専門職は恒常的に不足しており、町民は十分な保健・医療の支援を受けることが出来ていない。

■研究事業の概要

糖尿病や肥満症（メタボ）、これらと密接に関連する慢性腎臓病や心臓病における生活習慣の改善（＝行動変容）は極めて難しく、実効性のあるアプローチは全世界的に確立されていない。また、従来、国内外で行われてきた介入型疫学研究は個人の行動（運動量、食事量、睡眠、生活リズムなど）を精確・定量的に評価出来ておらず、自己申告や曖昧な記憶を拠り所にした聞き取り調査やアンケート調査がベースになっていた。

このような背景を踏まえ、内閣府の支援により西普天間での沖縄健康医療拠点構想における中核事業である沖縄バイオインフォメーションバンクの先導的研究として、琉球大学医学部、久米島町、公立久米島病院、企業群との協働により、久米島町民の御協力と御理解を戴き、学童期、青年期、成人期にわたる多数例を対象として、先進的な種々のデジタルヘルスデバイスを活用し、時々刻々の生体情報を個人に精確にフィードバックするシステム、および、個人の臨床データをデジタルで追尾するクラウド型医療情報蓄積参照システムの2つを両輪として活用し、3年間の研究期間において生活習慣病の予防効果および改善効果を評価

する社会実証試験を行う。個人内、集団内の経時的で大規模なデジタル・バイオデータ（ビッグデータ）を解析により、超早期の病態予測マーカーの発見や新たなデジタルデバイスの開発につなげ、久米島に新たな健康ブランドを樹立し、人口の維持増進や経済振興に結び付ける。

【本件に関する問合せ先】

琉球大学医学部総務課 源河

電話：098-895-1010

FAX：098-895-1090